



世界に希望を生み出そう

# 有田2000 ロータリークラブ

No. 1024  
Club Bulletin

会長 永石 睦巳  
幹事 加納 恒儀  
クラブ会報委員長 梅本 茂喜

## ロータリー財団月間

### 四つのテスト 言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

### 本日のプログラム

令和5年11月29日(水) 第1025回

ソング「手に手つないで」

会長の挨拶 幹事報告 委員会報告

ニコニコ箱報告 出席報告

商工会議所

局長 丹田祥史様

経営支援課長 竹内一博様

例会日/毎週水曜日 19:00

事務局・例会場/〒643-0025

有田郡有田川町土生409

吉備インターゴルフセンター

TEL 0737-52-8960

FAX 0737-22-6800

E-mail: info@arida2000rotary.club

URL: http://arida2000rotary.club/

### 次のプログラム

- |         |             |
|---------|-------------|
| 12月 6日  | 年次総会        |
| 12月 16日 | クリスマス例会     |
| 12月 20日 | マルケンみかん工場見学 |
| 12月 27日 | 定款による休会     |
| 1月 3日   | 細則による休会     |
| 1月 10日  | 細則による休会     |
| 1月 17日  | 新年例会 利き醤油   |

### 前回の報告 (第1024回例会)

開催日 令和5年11月18日(土)

15時～現地集合

白木海岸清掃奉仕移動例会

お天気: 強風

雨が降ったりやんだりの中、毎年恒例の白木海岸を清掃しました。

風に飛ばされそうになりながら、ごみを集めました。今年も漂流物がたくさんありました。ポイ捨てや放置

されたプラスチックごみが、河川などを通じて海へ流出し、海洋プラスチックごみとして、海岸や海底にたまったり、水中を浮遊したりします。なかでも、5mm未満の微細なプラスチックは「マイクロプラスチック」と呼ばれています。プラスチックを含む海洋ごみは、生態系を含めた海洋環境の悪化や海岸機能の低下、景観への悪影響、船舶航行の障害、漁業や観光への影響等、国内外で様々な問題を引き起こしています。



1億5000万tの海洋ごみが、現在確認されています

### SDGs 目標14「海の豊かさを守ろう」とは

SDGs 目標14「海の豊かさを守ろう」とは、海や海洋資源を持続的に利用するために掲げられた目標。

#### 海洋環境の現状

海洋ごみが増えている プラスチックごみだけでも合計1億5000万t以上

海洋汚染が拡大している 生活排水、工場排水、船やタンカーから漏れた油などが要因

海洋資源が減少している 1970年から2012年にかけて海洋生物の個体数が約50%減

#### 目標達成のために私たちにできること

01 普段の生活で出ているごみの量を減らす

02 街中にごみが落ちていたら回収してごみ箱に捨てる

03 回収した海洋ごみを再利用する(例: 海ごみアート)



年間800万tが、新たに流入していると考えられています（参照：今、世界で起きている「海洋プラスチック」の問題 | WWFジャパン）。海のごみの排出量が、回収量を超えてしまっています。日本は海に囲まれており、とても恵まれた環境にあります。だからこそ、海洋環境を守ることは日本にとって特に重要です。ところが、経済発展への意識が大きくなりすぎたために、環境負荷について深く考えることなく海洋ごみの量を増やし続け、結果的に問題となってしまっているのが現状ではないでしょうか。このままごみを放置していたら、海洋ごみが今後さらに増えていくのは目に見えています。結果を変えるには、日本でも今発生している問題に対して、原因を考え何らかのアクションを起こしていかなくてはなりません。

日本財団が2018年におこなった「海洋ごみに関する意識調査」によると、「海洋ごみ（海ごみ）」という問題を「知っている」と答えた人は約8割だった一方、「地域にごみを減らす活動がない」または「活動を知らない」人は約6割にのぼりました（参照：海洋ごみに関する意識調査 | 日本財団海と日本PROJECT）。知っている人は多くとも、「どこから」「どのくらい出て」「どうすれば改善していくのか」まで知っている人は少ないのではないのでしょうか。実際、海洋ごみ問題に取り組むようになり、海洋ごみについて身近な人と話すことも増えましたが、身近なところのごみが流れ着いて海洋ごみとなってしまっていることや、海岸に打ち上げられているごみの量よりも海中のごみの方がさらに増え続けていることについてはあまり知らない人が多いと感じています。

海洋ごみは、海へ遊びに行った人だけが出したごみだけでなく、家庭や道端などのあらゆるところから流れ着き、ごみ箱のようになってしまった結果です。海洋ごみ問題を解決するためには、海洋ごみと自分たちは決して無関係ではないことを一人ひとりが理解する必要があります。



●出席報告●

	会員数	出席者数	出席率
本日の出席	13名	8名	61.5%
今年度平均		10.6名	81.5%

